

Pod Success 19

Vol.

Print On Demand Success

RICOH Pro Case Study 【お客様ご活用事例】

【情報処理業】

テクノプラン株式会社



マラソン大会に不可欠なナンバーカード制作。
バリアブル印刷とスポンサーロゴの再現に、PODが貢献。

課題

- 耐久性が高く、汗や雨に強い用紙を使いたい
- より正確なタイム測定や広告の表示など、ナンバーカードの多機能化に応えたい
- 激化する他社競合の中で、差別化を図りたい

解決

- リコーの用紙検証により、ペットボトル再生紙が使用可能に
- 印刷が速く美しく高品質になり、複数要素のバリアブル印刷にも対応
- ナンバーカード以外の印刷物受注で、トータルな運営をサポート

「丈夫で耐水性があり、美しく印刷できる紙」

ペットボトル再生紙を使用できることが、
RICOH Pro導入の決め手。



代表取締役 小園江 文雄 氏 (おそのえ ふみお)

■ 製品・サービスの品質を高めながら
コストを抑える内製化を推進

- ✓ 耐久性が高く、
汗や雨に強い用紙を使いたい
- ✓ より正確なタイム測定や広告の表示など、
ナンバーカードの多機能化にゆえたい
- ✓ 激化する他社競合の中で、差別化を図りたい

解決

- リコーの用紙検証により、
ペットボトル再生紙が使用可能に
- 印刷が速く美しく高品質になり、
複数要素のバリエーション印刷にも対応
- ナンバーカード以外への印刷受注で、
トータルな運営をサポート

背景と経緯

■ 1985年、電子機器設計開発の企業としてスタート

テクノプランは、1985年陸上競技用電子音スターや多機能電話機性能試験機の開発といった研究開発型の製造業として創業。1996年、大手電子機器メーカーからの依頼による『マラソン大会計測記録集計システム』の開発を機に、マラソン大会運営を受託するビジネスを開始し、現在では日本陸上競技連盟公認業者として、計測記録集計を中心に日本全国で実施されるマラソンやロードレース大会の受託運営が主要業務となっている。健康指向によるランニングブームは町おこしニーズと相まって、自治体主催のマラソン大会は年々増加。

テクノプランでは年間約70大会を運営しており、話題を集めた『ちばアクリンマラソン』の計測記録集計にも携わっている。

■ ゴールタイムを計測し管理するために、 ナンバーカードは不可欠

「計測方法は、磁気カードを使用したシステムからナンバーカードに印刷されたバーコード読み取り方式に移り、現在はICタグをナンバーカードに取り付け、ゴールに設置されたアンテナ部を通過する際、瞬時にデータを取り込む『ICタグ自動計測システム』を導入しています。長年の経験から、データの記録不良がいちばんの心配。ですからICタグ以外にもバーコードや、ゴールに設置した監視カメラ確認という、2重3重のバックアップを心がけています。必死に走った参加者の思いを考えると、記録が分からないということはあってはなりません。計測にはすべてナンバーカードが関わっており、ひとりひとり異なるナンバーカードの制作が、マラソン大会運営を左右するといっても過言ではありません。」代表取締役 小園江文雄社長は、良質なナンバーカードがなくては大会自体が運営できないと語る。

■ ナンバーカードの素材は、布から不織布、 ペットボトル再生紙へ

「当初のナンバーカード素材は布。通気性がよく参加者には好評ですが、汗や水に弱く、印刷によっては背番号がにじんで見えなくなることも」素材的なポイントは、丈夫であること。水に強いこと。美しく印刷できること。小園江社長は、不織布を使い外注印刷でナンバーカードを制作。しかし高コストになるため、印刷の内製化を検討する。

「オフィス向けプリンターでトライするも、結果は散々。不織布は、すぐに詰まってしまう。さらに素材を探し、ペットボトル再生紙という、通気性では劣るものの、かなり理想的な素材を見つけることができました」

■ 限界にきていたオフィス向けプリンターによる印刷

「ペットボトル再生紙は印刷機内部の熱で変形し、よく詰まりました。黒が薄く印刷されたり、カラーの再現性も不安定で、印刷ごとに違った色になることも。ヤレ(廃棄紙)も多かったですね。参加者データは直前まで揃わなかったり、制作後の変更で作り直すことも多々ありました。その際も、カラー再現が悪く同じ色にならないこともあり、苦労させられました」ペットボトル再生紙を使用した印刷の内製化という課題に対し、リコーからPOD(Print On Demand)提案が行われた。



導入の効果

印刷が速く美しく 高品質になり、複数要素の バリエーション印刷にも対応

約15,000名が参加した『第16回大阪・淀川市民マラソン』では、自動計測システムとともに参加受付とナンバーカード制作など、運営をサポート。ナンバーカードには大会名、競技種目、番号、ニックネームなどを印刷するが、フルマラソンやハーフマラソンなど、競技は10種目あり、32パターンのデザインが必要。PODならではのバリエーション印刷が威力を発揮した。「『ちばアクアラインマラソン』は、受付数約15,000名。協賛6社のスポンサーロゴについて、鮮明性やコーポレートカラーの色味など厳しいチェックがありましたが、RICOH Proの高品質な印刷で乗り切りました」

マラソン用ナンバーカードの印刷内容

個人別バーコード

Tシャツサイズ(3種)

個人別ICタグ

競技種目別の背景色

呼びかけ用のニックネーム

ナンバーカード番号
男子:黒
女子:赤

選手本名

大会スポンサーロゴ

※赤字部分はバリエーション印刷

リコーの用紙検証により、 ペットボトル再生紙が使用可能に

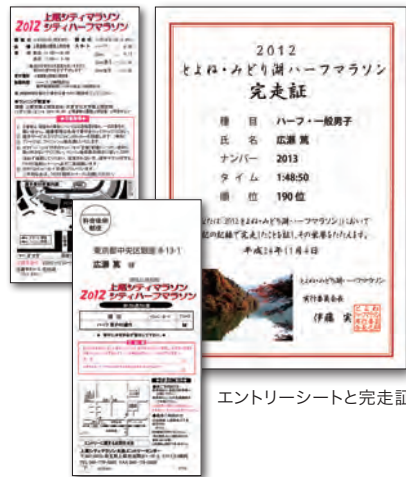
リコーの担当営業は小藺江社長の熱意に応えたいという一心で、リコーでの用紙検証に挑む。さらに用紙メーカーとの交渉により、品質のバラつきが少ないペットボトル再生紙の調達に成功。リコーとテクノプランの二人三脚により、RICOH Proでのペットボトル再生紙の使用が可能となった。「何より、丈夫で耐水性があり、美しく印刷できるペットボトル再生紙をRICOH Proで使えるということがうれしい。しかもマラソン大会は自治体主催が多く、再生紙ナンバーカードは環境への配慮からも評価されます」小藺江直子専務は、RICOH Pro導入がナンバーカード制作に大きな影響を与えたと語る。



専務取締役 小藺江 直子 氏

ナンバーカード以外への印刷受注で、 トータルな運営をサポート

「RICOH Proを他の制作物に使わない手はありません。すでに名刺、封筒、チラシは手がけていますが、今後は記録集の冊子制作や大会プログラムの増刷分のPOD化を視野に入れています。マラソン大会に不可欠な自動計測システムとツール制作をトータルで提案し、差別化を図っていきたい」
小藺江社長は、印刷物の内製化でコストを抑えることが、激化する競争に打ち勝つ重要なポイントだと語る。



エントリーシートと完走証

今後の展望

RICOH Proの瞬発力で、超多忙なハイシーズンをクリア。さらなるクイック対応を想定し、ゆとりある体制づくりへ

「マラソン大会のハイシーズンは秋。スポーツイベントが目白押しで、自転車レースなども加わり、目が回るほどの忙しさです。今シーズンは受託が好調で、RICOH Proがなければ、対応できなかったでしょう。短納期やバック

アップを考えれば複数台体制が必ずと必要になりますね」自治体を中心とした住民参加型のスポーツイベントは、増えつつあります。テクノプランは長年のノウハウとRICOH Proを駆使し、このチャンスを活かしていきましょう。

【現場から見た RICOH Pro】

エントリーセンターの常任スタッフは5名。
大会ごとにそれぞれが担当し、制作管理。

■ 機種変更への不安を一掃した RICOH Pro



エントリーセンター 川田 盛子 氏

RICOH Proへの機種変更に不安があったというエントリーセンターの川田氏。「RICOH Proはそれまでの機種と比べ高機能で、自分たちに上手く使えるのかどうか正直不安でした。思った色が出るのか、紙は詰まらないだろうか。それまでの経験がリセットされる思いがありましたが、導入し、いざ使ってみると何の問題もありませんでした。それどころか、印刷はきれいだし、速いし、カラー再現も安定していて、私たちの仕事をしっかりサポートしてくれています」同時に導入した断裁機は、紙の厚さ7cmまでを一気に断裁可能。女性スタッフの作業負担を軽減しているという。

■ 印刷速度の速さとトラブルの少なさで、作業時間が短縮

「これまでのオフィス向けプリンターでは、紙づまりや汚れなどでメンテナンスに来てもらうことが非常に多く、その分時間がかかっ

ていました。RICOH Proは印刷速度も速く、しかもトラブルによる中断がほとんどないため、予定通りの時間に仕上げることができます。印刷に関わる時間は、約半分になった感覚です」電話ですぐに駆けつけてきてくれるメンテナンスは、自分たちの不安につきあってくれると、高い評価を得た。「エントリーセンターのスタッフ10数名で講習会に参加しましたが、戻ってからさまざまな機能にトライし、成功できたときには皆で拍手喝采。盛り上がっています。操作に関しても分かりやすく問題ありません。美しいPDFを高速でつくることができるスキャナー機能も、好評です」

■ 各自がマラソン大会ごとにデータを一元管理

エントリーセンターではメインスタッフを中心に、各自が、それぞれマラソン大会を担当。受付からナンバーカード制作まで、大会ごとにデータを一元管理している。現在川田氏は、『2012中日三重お伊勢さんマラソン』『第15回ひさいし榊原温泉マラソン』を任せ、作業しているという。エントリーセンターが、裏方でマラソン大会を支えている。



エントリーセンターのメインスタッフ



■商号 テクノプラン株式会社

■所在地 本社：〒362-0073 埼玉県上尾市浅間台1-16-3 友光第7ビル

■資本金 1千万円

■創業 1985年4月(昭和60年)

■従業員数 15名

■設備 RICOH Pro C651EX

■主な得意先(順不同、敬称略)

全国地方自治体、ミズノ株式会社、株式会社スポーツニッポン新聞社、中日新聞北陸本社、石川テレビ放送株式会社、株式会社テレビ埼玉

■主な印刷物/業務

ナンバーカード、ポスター、記録証、チラシ、記録集、大会マニュアル、名刺、封筒など
AUTO-ID(自動認識システム)の開発・製造・販売、その他電子機器の設計・製造販売、ロードレース大会計時記録処理業務および付帯業務の請負、インターネット物品販売事業など

RICOH
imagine. change.

株式会社 リコー

〒143-8555 東京都大田区中馬込 1-3-6

<http://www.ricoh.co.jp/pp/pod/>

リコー製品に関するお問い合わせは下記のダイヤルで承っております。

リコーテクニカルコールセンター **0120-892-111**

●受付時間：平日(月～金)9時～17時(祝祭日、弊社休業日を除く)

※お問い合わせの内容は対応状況の確認と対応品質の向上のため、録音・記録をさせていただきます。

※受付時間を含め、記載のサービス内容は予告無く変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。
<http://www.ricoh.co.jp/contact/>

■リコーにご提供いただいたお客様の個人情報の取り扱い方針については、当社ホームページでご確認いただけます。

このカタログはRICOH Pro Cシリーズで印刷しています。

●お問い合わせ・ご用命は・・・

このカタログの記載内容は、2016年2月現在のものです。

1301S-1602<34211611>3/P